

第3回 子どもみんなプロジェクト in 鳥取
「子どもの育ちを支える発達科学と発達支援」

学習（読字・書字・計算）に 手さを持つ子ども達への発達支援



福井大学 子どものこころの発達研究センター
藤岡徹

①自己紹介

②学習(読字・書字・計算)の苦手さ、とは

③学習(読字・書字・計算)に苦手さを持つ子ども達への
発達支援の必要性

④発達支援の実践例

⑤まとめ



限局性学習症(学習障害)について (DSM-5の診断基準)

○ 読みの困難

「読字の**正確さ**」、「読字の**速度または流暢性**」
「読解力」の困難

○ 書きの困難

「つづり字の**正確さ**」「文法と句読点の**正確さ**」
「書字表出の**正確さまたは構成力**」の困難

○ 計算の困難

「数の感覚」「数字的事実の記憶」「計算の**正確性または流暢性**」
「数学的推論の**正確さ**」の困難

○ この子は学習障害ではないのでは??

○ なぜなら

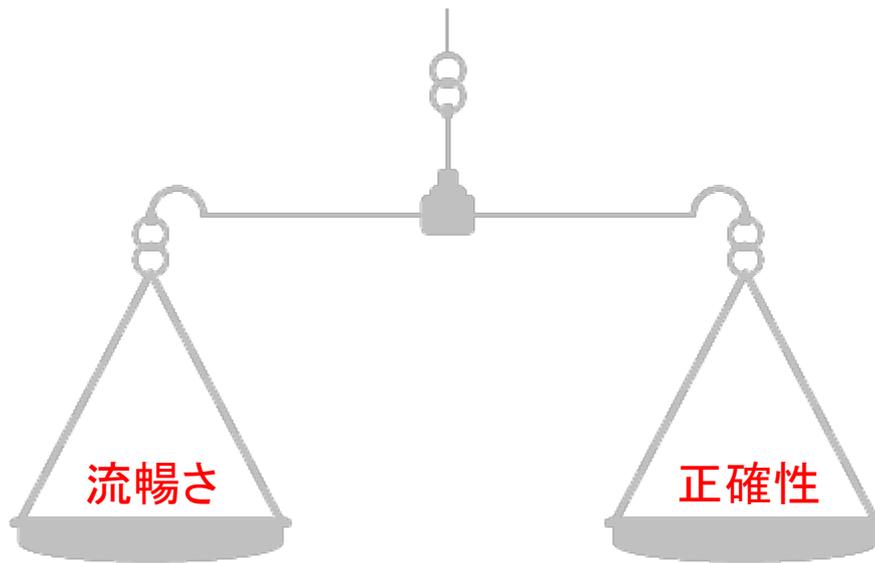
→文字は読めるし、書けますし。

→計算も出来ますし。



限局性学習症(学習障害)について

○「流暢さ(スムーズさ・速さ)」と「正確性」の問題



読み書き計算は
→速くても不正確
→正確だけどゆっくり
では日常生活や学習
場面で困難が生じる



限局性学習症の十人十色の臨床像

- DSM-5には重症度の記載がある（APA, 2013）

軽度： いくらか困難があるが、適切な調整や支援で補償される

中度： 際立った困難があり特別な指導を行う期間がなければ技能を習得することが難しいようで、学校や職場でのいくらかの調整や支援で補償される

重度： 学習に重度の困難さがあり特別な指導の継続がなければ技能を習得することが難しいようで、適切な調整や支援があっても補償は難しい

→つまり、症状が幅広い



①自己紹介

②学習(読字・書字・計算)の苦手さ、とは

③学習(読字・書字・計算)に苦手さを持つ子ども達への
早期発見・早期支援の必要性

④実践例

⑤まとめ



早期発見・支援の必要性： 適切な支援が受けれないと…

- (支援がないと) 学習に苦手さがある子のQoL(生活の質)や自己肯定感は低い(Ginieri-Coccosis et al., 2013など)
- McNulty (2003) の読字障害のある人へのインタビューによると . . .

幼少期からの
誤解/不適切な対応



自分はだめ
なんだ...

LDトラウマ
→自尊心↓
→自信喪失
→劣等感

と言える状態に...

早期発見・支援の必要性： 適切な支援が受けれないと…

- 河野(2014)の読み書きが苦手であった成人についてのまとめのなかで、対象となった方は
 - 親や先生に何度も注意された恐怖心が今も残っている
 - 自分の頑張りが足りない、と思ってきた
 - 勉強できないのは自分の努力不足だと思った
 - 板書に時間が足りず、休み時間も書いていた
 - 怠け者だから字が覚えられないと思っていた
 - 授業中、読んだり書いたりの間は寝ていたなどと想起していた。



- ゆっくりなのは最初だけ。そのうち追いつくよ。
- 前に見てた子も少しずつ早くなっていったし、大丈夫。

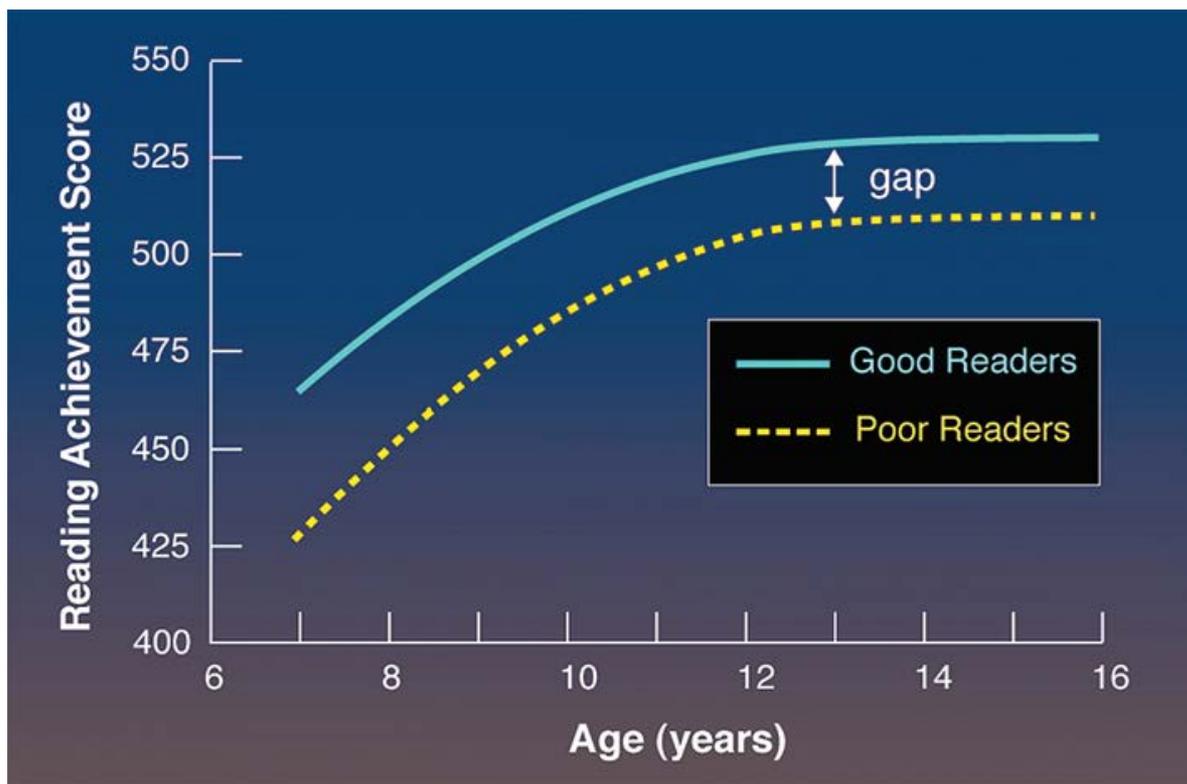
→本当にそうでしょうか??



早期発見・支援の必要性： 苦手さは自然とは追いつかない

- 読みの苦手な子ども、読むのは早くなります
- でも、相対的な苦手さは、自然に和らぐことはない

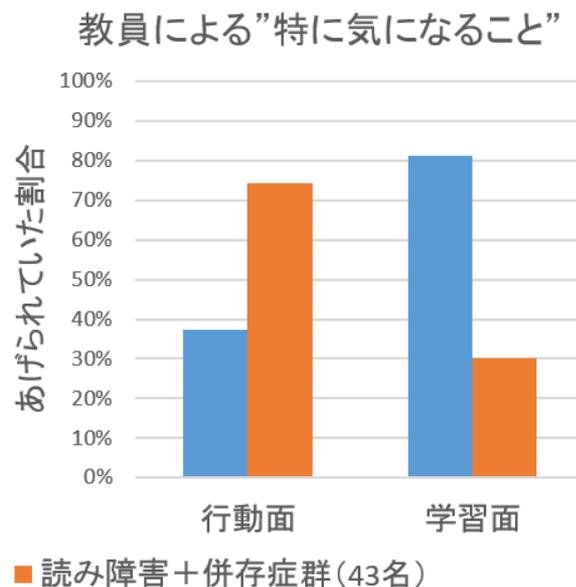
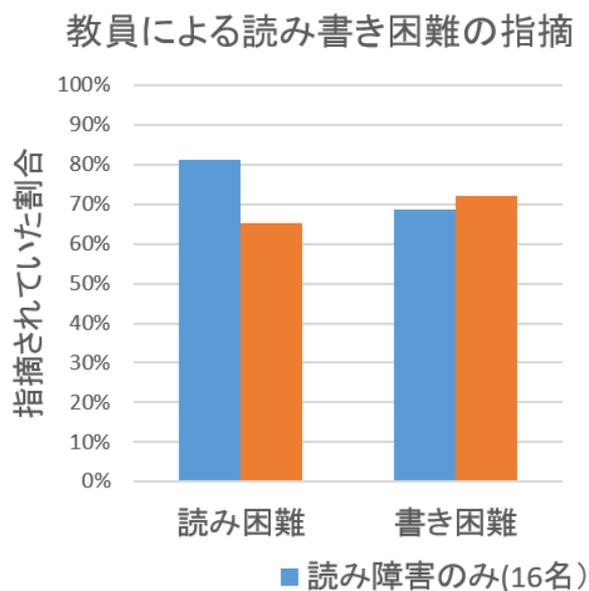
(Shaywitz et al., 2008)



(Shaywitz et al., 2008)

早期発見・支援の必要性： 学習面の問題は報告されにくい

- 読字障害は注意欠如多動症 (ADHD) や自閉スペクトラム症 (ASD) と高率で併存する(岡ら, 2012; Asberg et al., 2005)
- ADHDやASDが併存すると、読み書き困難があっても(そして、それに気づかれていても)、受診時の主訴として保護者や先生から上がりにくくなる(藤岡ら, 2014; 藤岡ら, 2015)



早期発見・支援の必要性： まとめ

幼少期からの
誤解/不適切な対応



自分はだめ
なんだ...

LDトラウマ
→自尊心↓
→自信喪失
→劣等感

と言える状態に...

上述のようなことがないように、

早期発見・適切な支援により、その子が持つ必要が無い劣等感などを抱くことなく、過重な負荷をかけることなく、どんどんと伸びていける環境を!!

→診断は後ででもよい

①自己紹介

②学習(読字・書字・計算)の苦手さ、とは

③学習(読字・書字・計算)に苦手さを持つ子ども達への
発達支援の必要性

④発達支援の実践例

⑤まとめ



「読める＝内容がわかる」ではない

読み困難への支援

○ 読みへの支援

ひらがなの定着(キーワード法やMIMなど)、サイトワード(見てわかる語句)を増やす、

※サイトワードを増やすには語彙が必要

○ 読みやすい/覚えやすい工夫

フォントの変更、色反転、カラーフィルム、カラーバールーペ、文節ごとにスペース、漢字に読み仮名をつける、漢字のイメージや語源も一緒に覚える

○ その他

読み上げ(代読やICT機器)、課題時間の延長、宿題の調整、

※どこまでやるかは重症度による ※基本的に英語も同様

書き困難への支援

○ 覚えやすい工夫

語呂合わせ、イメージも一緒に覚える、部首の意味も覚える、漢字パズル

○ 書きやすい工夫

大きい紙に書く、マスを大きくする、(日記や作文などは事前に何を書くかまとめる)

○ その他

代筆、音声入力、ICT機器(PC・ICレコーダ・スマホの写真やムービー)、板書の撮影、友達のノートをコピーする、**回答はひらがなのみでも許可、トメハネ・書き順は大目に見る、宿題の調整(反復練習は効果が小さい場合も)**

計算困難への支援

- 数感覚は持っているけれども、計算(筆算や暗算や九九などを覚えること)は難しいタイプ

マス目のついた計算用紙の活用、大きい計算用紙、計算方法を言語的・視覚的に明確化する、内容を視覚的に提示する

- 数感覚は希薄だけれども、計算はできるタイプ

数量を視覚的に提示する、具体物を使用する、数字シートや数直線の持ち込み

- 両方に共通

日常生活や経験と関連付ける、宿題の調整(反復練習は効果が小さい場合も)

事例



①自己紹介

②発達性ディスレクシアについて

子どもたちが示すさまざまな臨床像と
早期発見・早期支援の必要性

③研究結果

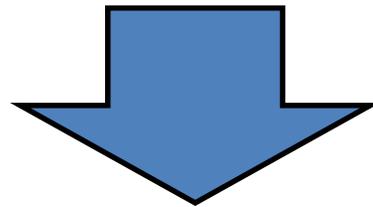
医療機関における早期発見のために

④さいごに



まとめ

- 全ての人々が、同じ方法で出来る必要は無い
- 読み書き計算は、方法や手段の一つでしかない
- 過重な努力は必要ない
- その子が「この方法なら出来る」と腑に落ちる(かつ将来役に立つ)方法を身につけることが重要
- 得意なところで勝負する
 - 大人は意外と、苦手を避けている



早期発見・適切な支援によって、その子が持つ必要が無い劣等感などを抱くことなく、どんどんと伸びていける環境を!!



COLOR BAR LOUPE カラーバールーペ



4 Colors 瞬間読取り機能付



カラーのラインが瞬時に文字を読取る。

カラーのラインがセンターにある置き型バールーペです。

解り辛かった行の読取りがストレスなくスムーズにできるように作られたルーペです。

カラーのラインが一行一行を読取り易くし、書物等の細かい文字、行を間違えなくとらえます。

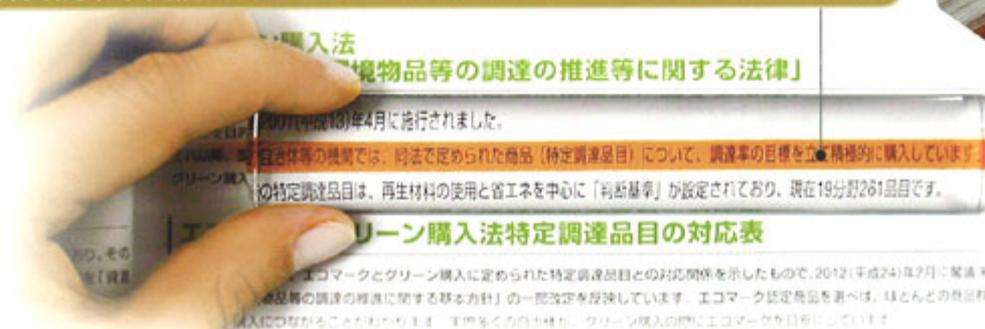
シンプルな形状でデスクにさりげなく置かれていても違和感無く馴染むデザインが特長。

読取り機能を重視したラインのカラーはスタイルに合わせて選べる4色展開。

COLOR BAR
LOUPE
ORIGINAL



瞬間読取り機能 / カラーのラインと文字を重ねることで瞬時に文章を読取る



発達障害を考える ♡ 心をつなぐ

 **CD-ROM** 付き

特別支援教育 をサポートする

読み・書き・計算 指導事例集

宮城学院女子大学教授
梅田真理 編著

気になる子どもの困難に合わせた、
さまざまな指導事例を紹介！

小学校で学習する主な課題について
つまずきやすい部分とその支援方法がわかる

そのまま使える教材資料を
たっぷり収録したCD-ROM付き！



算数の天才なのに

計算ができない

男の子の
はなし

算数ってなに？

